

手困難な資料であつただけに、今回の復刻刊行は大いに歓迎され、貴重なものとなるであろう。

三、内容

能美洞庵七十年忌を記念に刊行されたものである。元禄二年から長州藩医として、能美一族は七代にわたり登用され、洞庵（一七九四—一八七二）は五代目である。ただ洞庵一代の業績のみならず、三代由庵、四代友庵の活動状況が長州を中心に江戸・京都の地に、人物としては小石元瑞・南部伯民・頼杏坪・頼山陽・篠崎小竹・小田海儼・矢野苦山などが現われてくる。洞庵は毛利藩主の信任も厚く、洞庵の子・隆庵などと共に医学館創設、洋学振興につとめ、牛痘法普及、コレラ予防などに努力した。賀屋恭安・青木周弼・坪井信道など蘭医学との出会いが記載され、研究者には貴重な資料となるであろう。

附録「雪堂詩抄」七十九題は洞庵の晩年における世事・自然・風光・回想などの感懐を連ねた詩稿となっている。

（江川 義雄）

〔溪水社・広島市南区段原日出町一四一五、大儀正夫、送料共に二五〇〇円〕

梅溪 昇著『洪庵・適塾の研究』

大阪大学名誉教授梅溪昇氏が、このたび標題の大著を刊行された。著者は昭和二十八年三月に京大人文研究所から大阪

大学文学部（国史学）へ赴任され、先年停年退官された碩学である。『お雇い外国人』、『日本近代化の諸相』など多くの著作を出され、医史学会とも深い関係をもたれている。著者は発足間もなかつた適塾記念会とは四十年間にわたり、その運営にあたられ、また『適塾』の発行には直接たずさわってこられた。従つて数多い洪庵・適塾に関する史料や研究書には精通するとともに、ご自身でも適塾について多くの研究を発表してこられた。本書はこれに加えて未発表の論文も多く収録されたものである。その内容を略記すると、次の三六項目となる。

(I) 緒方洪庵と適塾の歴史的評価をめぐつて。洪庵画像・夫人八重の生活など七項目。

(II) 天保十四年十二月適塾の過書町移転説の根拠となつていた史料について。適塾解体修理工事の開始にさいして。都道府県別塾生名簿など七項目。

(III) 福澤諭吉に関する諸事項、七項目。

(IV) 緒方富雄「蘭学者の生活素描——緒方洪庵伝補遺——」の再検討など六項目。

(V) 洪庵の父・佐伯瀨左衛門の経歴など五項目。

(VI) 適塾と適塾記念会など四項目。

このように内容は多岐にわたり、詳細に論じられている。すべてにつき紹介する余裕はないので、筆者も関連のある適塾の過書町移転年月確定についての項を紹介させていただく。

(Ⅱ)の冒頭に、天保十四年十二月適塾の過書町移転説の根拠になつていた史料について——弘化二年十二月過書町移転説の確定に関連して——と題して大略、次のように記載してある。

最近、杉立義一氏が「新史料より見たる適塾の過書町への移転及びその名儀の移動について」と題して、従來說かれてきた天保十四年(一八四三)十二月説を完全に否定して、新たに弘化二年(一八四五)十二月説を唱えられた(『適塾』第一九号、昭和六十一年)。そして井上孝治、芝哲夫両氏も「西山静齋書状について——適塾移転の年は改めらるべきこと——」(同前所収)を発表されて、上記杉立説を別の史料から立証されたのである。これ以来適塾参観者のためのパンフレットにも、このように移転の年月が訂正されるに至つた。

これは筆者が新たに入手した史料(『永代売渡申家屋敷之事』、「弘化二年己十二月過書町転居諸人用扣」、「家賃利銀請取通」など一〇点)により、適塾の瓦町から過書町への移転は弘化二年十二月十五日であることを、本誌三三卷三号「昭和六十一年」ならびに『適塾』誌上に発表した。また井上氏、芝氏の別史料による立証もあつて移転年月が訂正確認された。それでは従来「天保十四年説は何を根拠として唱えられていたものか。この点を著者は改めて検討された。それによれば、洪庵の父惟因から洪庵にあつた年号の記入のない十二月十日付の手紙を、緒方銈次郎先生が天保十四年と誤認されたため、『緒方洪庵伝』にもそのままひきつがれたものと判明した。

さらに著者は緒方富雄先生が『科学思潮』に連載(昭和十八年)された「蘭学者の生活素描」の手紙類についても再検討を行つておられるが、これらの作業はなかなか根氣のいる研究であり、また著者ならでは出来得ない事と敬服する。

最後にわれわれの大先輩である緒方富雄・中野操・藤野恒三郎の三先生の洪庵・適塾研究の逸話などについても述べておられることは、三先生追慕の念を呼びおこさずにはおかない。中野操先生はかつて著者に対し、適塾のことはどんなにおやりになつても、やりすぎることはありませんと申されたという。洪庵・適塾の歴史の評価を考へるとき、改めて本書をひろく推薦するものである。

(杉立 義一)

〔思文閣出版・京都市左京区田中関田町二一七、電話〇七五—七五一—一七八一、平成五年三月十日発行、A5判、五二二頁、定価二二、三六〇円(本体二二、〇〇〇円)〕

星 和夫著『楽しい医学用語ものがたり』

医学用語の語源を扱つたユニークな本が出た。一つの主題を見開き二頁の読み物風に仕立てたもので、おそらく類書があるまい。

この本の著者は外科、臨床検査関係のキャリアの長い方で、現在は青梅市立総合病院の院長をしておられる。序文によれば、著者は学生時代から詮索好きだったとのこと、この辺